

就中吾人の最も視聽を驚かせしはタシケンド地方よりトムスク市に達する鐵道(亞爾泰線)布設の計畫愈實行せられんとするの一事なりとす。該鐵道の敷設が伊犁に如何の關係を及ぼすべきやは、吾人の暇々するを待たず、露國の有名なる政事家ミハイル、セリホフ氏が該鐵道に關する説明にて之を盡せり。氏は先づ該鐵道の敷設を以て、露領中央亞細亞に於ける殖産興業を啓發し、民衆の移殖を増進するのみならず、又軍事上極めて重要なりとする所以を説き、更に一步を進めて曰く、吾人は東方に於ける有事の日、該鐵道は、我邊境を掩護する爲め、軍事上決して之を輕忽に付すべからざるを警告せんと欲す。露骨に表白すれば、該鐵道は露國の國境をして、漸次南方に擴張するが爲めに、極めて須要なるものと謂はざるべからず。熟、露清兩國の境界を視るに、唯、楯狀の如き山岳若くは河流を以てする所謂机上の理論的境界たるに過ぎずして、確乎たる境界線の設定せられたるもの無く、此の地方一帶の民族が、一定の住所なく、肥沃の地を見れば山嶺を踰えて移耕し、土地已に盡くれば、更に河流を涉りて他に轉穡する、所謂水草を逐うて轉移しつゝ在るの現狀に徴するも、他日必らず露清の境界に關して、一場の紛擾を